

「南朝の英雄」 結城宗廣

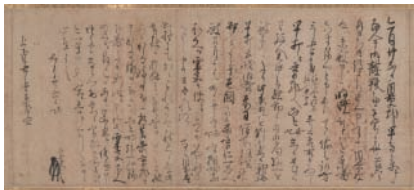


結城宗廣肖像
(関川寺蔵)

結城宗廣は白河結城氏二代当主。鎌倉幕府の忠実な家臣でしたが後醍醐天皇側につき新田義貞と共に鎌倉幕府を滅ぼします。その功績により、後醍醐天皇から厚い信任を受け、北畠顕家と共に奥州の統治を任せられます。足利尊氏が天皇に反旗を翻して京都に攻め入り、支配下に置くと顕家と共に足利軍を攻め、京都奪還で大功を挙げました。

しかし再起した足利軍に敗れ伊勢まで退きます。宗廣は再起のため伊勢より海路奥州へ向かおうとしますが、台風のために海上で遭難し、伊勢で無念の病死を遂げます。

「南朝（後醍醐派）」の勢力が衰退する中、最後まで南朝に尽くした宗廣は、南朝を正統とする後の歴史の中で「忠臣」と称えられました。白河市内の白川城跡に江戸時代に刻まれた宗廣の業績を称える「感忠銘碑」が、同じく関川寺に宗廣の霊廟があります。



「宗廣直御筆謀反」

鎌倉後期になると天皇より幕府の勢力が強く、天皇に対する「謀反」の表記がはじめて公文書に現れる。

【結城宗廣 年表】

文永 6 年 宗廣出生。父は白河結城氏初代、結城祐広。母は熱田神社(1269) ごろ 大宮司の娘。※建治 2 年 (1276) 出生との説もあり

正応 2 年 結城祐広 白河に下向、白河結城氏の成立。(1289)

文保 2 年 後醍醐天皇即位。天皇は宋学を学び、天皇親政（天皇が自ら行なう政治）を目指していたため、鎌倉幕府の倒幕に奔った。

元亨 4 年 後醍醐天皇一回目の倒幕計画。六波羅探題に発覚し、天皇の(1324) 側近日野資朝らが処分される（正中の変）。

元弘元年 後醍醐天皇二回目の倒幕計画。笠置山で挙兵するが敗れ、(1331) 隠岐に流される。しかし呼応して挙兵した楠木正成は翌年も抵抗を続けた（元弘の乱）。このとき、首謀者の一人である高僧 円観が宗廣に預けられる。宗廣が天皇方については円観の影響と考えられている。

元弘 3 年 宗廣、新田義貞と共に鎌倉に攻め入り、鎌倉幕府を滅ぼす。(1333) 後醍醐天皇が親政を開始（建武の親政）。宗廣は功績により北畠顕家らと共に奥州の統治を任せられる。

建武 2 年 足利尊氏、建武政権より離脱し鎌倉から京都へ進軍。京都を(1335) 制圧された後醍醐天皇は比叡山へ退く。

建武 3 年 宗廣、北畠顕家と共に足利軍を攻め京都を奪回する。尊氏は(1336) 九州へ逃れる（延元の春）。

延元 3 年 足利尊氏が再起し九州から東上。宗廣は北畠顕家と共に足利(1338) 軍と戦うが、顕家が敗死し軍が壊滅。宗廣は伊勢で無念の病死をする（没年については 69 歳など諸説あり）。

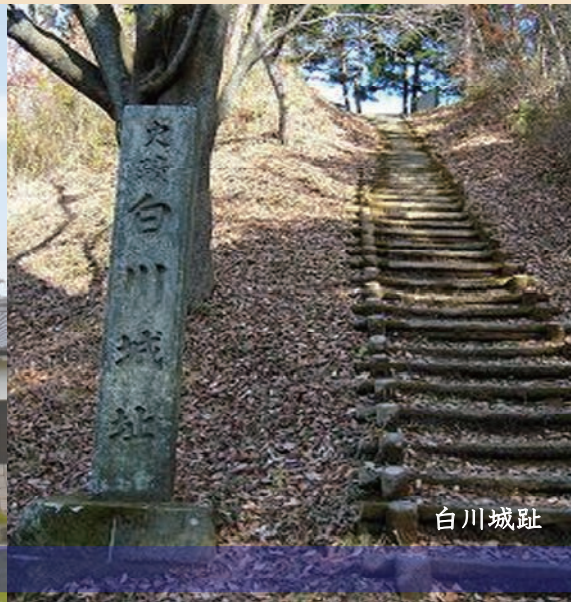
【感忠銘碑】

「感忠銘碑」は、結城氏の本城であった白川城跡の崖に刻まれている文章です。

宗廣・観光（宗廣の次男）父子の業績を伝えるために、白河城主松平定信の撰んだ「感忠銘」の三文字と、当時の白河藩最高の学者「広瀬典」の撰文を彫ったものです。南朝が正統とされた後世の歴史の中で、宗廣が忠臣と位置づけられていたことがよくわかります（中面に全文あり）。



白河小峰城



白川城趾

白河市歴史散策マップ 京の文化を伝えた白河結城氏



**財団法人
白河観光物産協会****行ってみっけ!!白河**

白河市郭内 1-2

TEL : 0248-22-1147
FAX : 0248-22-0117

**JAしらかわ****あなたと JA いい関係**

白河市弥次郎窪 29-1

TEL : 0248-22-5151
FAX : 0248-22-5159

**JA東西しらかわ**

白河市表郷金山字長者久保 2 番地

TEL : 0248-32-1031 FAX : 0248-32-1033

**白河信用金庫****今日も明日も幸福つないで**

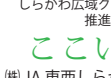
白河市新白河一丁目 152 番地

TEL : 0248-23-4511 FAX : 0248-22-3579

**白河****歴史ある日本酒の名醸地です。**

**財団法人 立教志塾**

まちづくりは、人づくり。人づくりは、われづくり。

**しらかわ広域グリーンツーリズム
推進協議会****ここいち白河**

白河市表郷金山字越堀 122-1

TEL : 0248-32-1032
FAX : 0248-32-2453

(株) JA 東西しらかわファームサポート内

福島県南ホテル連合会**ご宿泊のお問い合わせは
連合会事務局まで！**

県南地域での宿泊はおまかせください。**TEL : 0120-303-100**

最大 **2,500 名様** 収容！**(ホテルサンルート白河内)**

発行元：株式会社ヒューマンコア福島

白河結城氏 当主一覧



家紋 巴



藤原秀郷

白河結城氏は平安時代に平将門を討った藤原秀郷を祖とし、源頼朝の奥州征伐の後、小山朝光が白河を領地として与えられました。朝光の孫、祐広が初めて白河に下向し、「白河結城氏」を名乗ります。

二代 結城宗廣は後醍醐天皇の鎌倉幕府攻めに協力し建武の新政においては「三木一草」と称される有力武士となりました。一時は伊達氏を凌ぐ勢力を誇り、京の都とも交流を持ちましたが、内紛や佐竹氏などの侵攻により衰退。豊臣秀吉の小田原攻めに参加しなかったため、後の奥州仕置により改易されました。子孫は秋田、仙台などに散らばり、今も存続しています。

【三木一草（さんぼくいっそう）】

建武の新政時、無名の立場から軍功を挙げ寵遇を受けた、楠木正成、結城親光、名和長年、千種忠顕の呼称です。楠木は「クスノキ」。結城は「ユウキ」。名和は伯耆守だったので「ホウキ」。千種は「チグサ」と 4 人の姓や呼び名からとられています。

【白河結城氏歴代当主】※『白河市史 第 1 巻』より作成

- | | |
|----------------------------------|----------------------|
| ①結城 祐広
(ゆうき すけひろ) | ⑦結城 直朝
(ゆうき なおとも) |
| ②結城 宗廣
(ゆうき むねひろ) | ⑧結城 政朝
(ゆうき まさとも) |
| ③結城 親朝
(ゆうき ちかとも)
→「小峰氏」創設 | ⑨結城 義綱
(ゆうき よしつな) |
| ④結城 顕朝
(ゆうき あきとも) | ⑩結城 晴綱
(ゆうき はるつな) |
| ⑤結城 満朝
(ゆうき みつとも) | ⑪結城 義親
(ゆうき よしちか) |
| ⑥結城 氏朝
(ゆうき うじとも) | |

【不遇の幼主 義顕】

義親に領主を追放されたとされている義顕は太田川（泉崎村）で旧臣たちと捲土重来を誓い逼塞していました。御家再興のため大坂の陣で軍功を挙げようと再起しますが、嫡子朝綱が病のため出陣を諦め、当地で無念の死を遂げます。その後、子孫は秋田佐竹氏を頼り、秋田藩士となりました。

【ふたつの白川城】

白河結城氏の初代 祐広は白河下向時、当初は関川寺館を拠点としたと思われます。その後白川城（白河市藤沢山）を築き本城としますが、二代宗廣の嫡男 結城親朝が築いた白河小峰城（白河市郭内）が小峰氏の居城となり、その後白河結城氏の本城となっています。白河小峰城は江戸時代白河藩の藩庁となり、現存しています。